

# ITを用いた 診療システムと 未来の医療



千歳医師会  
緑町診療所

いな くま よし ひと  
稲 熊 良 仁

皆様あけましておめでとうございます。

年男ということで簡単に自己紹介を。愛知県生まれの47歳、医師22年目です。

2020年4月に千歳市にクリニックを開業し現在に至ります。

2020年4月千歳市に開業後すぐに千歳市内初の民間発熱外来を設置しました。医師会の先輩方、保健所はじめ行政の方のお力添えに、この場を借りて感謝申し上げます。

コロナ禍にあり、当院の診療システムが大変役に立ちました。

今回はITを用いた診療システムと未来の医療についてお話したいと思います。

日本の外来診療では「2時間待ちの3分診療」と揶揄されるように長い待ち時間と短い診察時間、そして医師患者とのコミュニケーション不足が言われてまいりました。診察室では担当医の言わば我流のやり方でスタッフがそれに従い業務を進めると言う構造になっていました。

これらを解決すべく開業時にこれらの外来診察フローを徹底的に見直し、労働生産性と業務効率の向上を目指しました。

概略①Web予約②Web問診③医療クラーク④自動会計機⑤インカム（小型トランシーバ）⑥オンライン診療

来院前にネット上で予約と問診を済ませた患者は受付後速やかに診察室に入り、スタッフがコートや荷物を預かりバイタルサインをとって医師を呼びます。入室前にカルテ上で問診バイタルサインと初期情報をチェックするので医師は診察時に常に本題から入ります。カルテ記入は医療クラークが行いますので、診察後すぐに次の診察室に移る事ができます（1日の終了後に医師がカルテを見直し加筆修正して完成させます）。患者の支払いは自動精算機で行うため、釣り銭トラブルや業務後のレジ締め時間の低減に役立っています。院内スタッフは全員インカムを使用しているため、常に全員の動きと次の作業を理解して動いています。オンライン診療には診察

用の携帯電話を用いています。院内外の医師とクラーク間コミュニケーションを行っています。医師が発熱外来のプレハブにいても院外の往診に出かけても、クラークは診察室で電子カルテ記入を行います。オンライン診療についても力を入れており、新型コロナウイルスの在宅療養患者の診察もスムーズに行えました。当院では問診、予約、オンライン診療まで全てLINE公式アカウントを用いて行えるようになっており、現在2,500人にご利用いただいています。また契約施設にはこれらの端末を貸与し、写真、文章による診察前の情報交換や往診以前の症状のオンライン診療などに役立っています。

システム導入後は以下の成果がありました。

- ①患者やスタッフの待ち時間減少、医師の診察に患者と向き合う余裕ができ、満足度向上につながった。
- ②コロナ禍においても非接触のITで診察業務の切り分けが行え、接触を減らせた。
- ③カルテが効率よくまとまりサマリや紹介状などが充実し「分厚い」患者データベースを作るようになった。

これらにより、システム導入の目的は達成したと考えています。

地方開業医の日常からはなかなか見えてきませんが、世界ではインターネットの高速化・AI・スーパーコンピュータ・ナノテクノロジーなどが医療にも次々と革新をもたらしています。

分子標的薬、mRNAのCOVID-19ワクチンなど創薬スピードは上がり、製薬寿命は短縮しています。通信速度の向上は人間の反応速度を超え、ダヴィンチなどロボット手術の領域は拡大します。AI問診システムはすでに研修医終了レベルの鑑別診断を提示できるまでに進歩しています。カプセル内視鏡がクリニックレベルに降りてくるのも時間の問題でしょう。バイオログ（バイタルサイン、心波形、心音、酸素飽和度）などは腕時計レベルで可能になり、電子カルテに常時解析データが乗るようになるでしょう。

ちなみにこの文章はスマホでのグーグル音声入力でもキーボードも筆も取っていません。

10年後20年後の医療は現在の我々の想像をはるかに超えてくると考えています。今後も未来を見据えながら、日本の診療改革の一助になるようなシステムを構築・提示していきたいと思っています。もし、諸氏の中でこのような診療システム、未来の医療について興味のある方がおられれば、是非ご連絡ください。